
8. 編集後記

リエゾンセンターの「起業教育」という言葉に出会ってもうすぐ丸3年。今年もあつという間の1年でした。昨年の自分と比べるとこの1年は、「自分のやりたいこと」「自分の感じたこと」を少しは周りの人に伝えることができたように思います。また、周りの人からも直接意見を投げかけてもらえるようになったと感じることができました。

さて、このような周りの人との繋がりを感じたこの1年の仕事を振り返ってみたいと思います。

私は学内の学生を対象にした「大商大ビジネス・アイデアコンテスト」の仕事を担当しています。今年は応募総数が過去最高の1,004件でした。この応募数に届いた一番の要因は、やはり先生方の学生達への働きかけだと思います。先生を通じて、本コンテストのことを知る学生も多かったかと思います。今年は、ご協力いただいた先生方の中に新しい顔ぶれが加わったことも応募数に繋がったと思います（もちろん最終的には企画書を書きあげて応募した学生がいたからです・・・）。

また、今年は担当になって3回目のコンテストということもあり、周りの方からいただいたアドバイスを少しでも反映したもの、自分自身の理想にちょっとでも近づけたものになりたいと思っていました。厳しい言葉もいただきましたが、少しでも改善できるように担当の先生方と相談しながら進めてきました。実際やってみて思ったような結果がでなかったこともありますが、1つでも「良かったよ」と周りから言ってもらえる成果を残せたことに安堵しています。もちろん「できること」「できないこと」がありますが、周りの人が何も言ってくれなくなったり、自分自身が「変えたい」という気持ちが無くなってしまうとそこで成長が止まってしまうと感じたからこそ動けたのだと思います。

それから今年の起業教育研究会では、この3年間でお世話になった方に講師として参加していただき、さらに相手への理解を深めることができました。一人目は旭電機化成株式会社 専務取締役の原様、もう一人は豊橋工業高等学校の小久保先生。講演の内容についてこの冊子に掲載する際もご協力いただいたのですが、校正作業をする中で何度も読み返していると、改めてお二方のゼロから始めたチャレンジ、すぐに結果がでなくても努力し続けることの大切さを教わりました。そんな素敵な方々とお会いする度に昨年よりいろんなことをお話しいただける関係になれたことをうれしく思っています。

今年もこの起業教育研究会に大阪府内はもちろんのこと遠方からご参加いただいた先生方ありがとうございました。また、開催にあたり、ご協力いただいた講師の方々及び企画・運営に携わっていただいた起業教育研究会企画委員会の先生方にも感謝申し上げます。

現在、起業教育研究会は次年度開催に向け、より良い内容にするためにプログラムを企画中です。詳細が決まりましたらHP等でご案内させていただきます。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

これからも高大連携の取組みであります「起業教育研究会」、「全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」を皆さまと共に企画・運営していきたいと考えています。先生方の忌憚のないご意見・ご感想をいただき、私たち自身も成長していければと思っています。

大阪商業大学リエゾンセンター
社会連携・研究支援課 田中佐登子